



2021・9・8(水)  
縄瀬 保育園  
池之上 俊江  
NO. 9

### 乳児保育の大切さ

0歳クラスは一対一で丁寧に食事、育児行為をしています。乳児期の段階でより丁寧に関わる事が大切であると今、見直されているのです。たかが赤ちゃん、たかが乳児とおもうのでしょうか、ごはんをバーッと口に放り込まれていたり大人が何でもやっていた事を、「今日から自分で食べてね」とスプーンを握らせ自分ではなかなかすくって食べられず、ほとんど食べこぼし状態であったのが保育現場の現状でした。「またこぼしてる～!!こぼさないで食べて!」と言われても、子どもは食べる事に集中しています。こぼして当たり前。食事の時間は、美味しい・楽しい時間であってほしいと思います。乳児期の段階で、しっかり育っていないまま、幼児になり急に「自分でしなさい。着替えなさい。考えて動きなさい。」といっても無理があります。子どもも考えており、その場を切り抜ける為に「言われたらやる、動く」というやらされるだけの習慣が身につく成長していくのです。子どもの主体性・自己選択の機会を奪っているのは大人です。大人の都合にあわせた保育はやめようと考えました。社協園では、子どもに丁寧な育児行為を続けながら忍耐強く待つ関わりを心掛けています。特に0歳は全てが初めて出会う事です。食事一つでも、大人が食べさせる時期、手づかみ期、スプーンを握って慣れる時期、スプーンで少しずつすくって自分で口へ運ぶ時期と段階を得て変化していきます。一人ひとりその時期は違います。その子のタイミングにしっかり向き合っています。すみれ0・1・2組は、一対一で着替えをします。服の着方、排泄、トイレの使い方、手の洗い方を丁寧に知らせる事で自然と身につけていきます。すみれ0・1・2組の時に身についた事は、ひまわり組になっても続きます。子どもが主体的に動けるようになるには、乳児期の丁寧な関わりがとても重要なのです。子どもが大人の手を必要とする年月はそう長くありません。子ども達も早く大きくなりたい!できるようになりたいと必死で毎日を過ごしています。いつか自立していく日まで今という時期を焦らず丁寧に、親切に関わりたいですね。

0歳クラスからつねに玩具を並べて配置しています。これはどこのクラスに進級しても共通しています。なぜ見えるように配置する必要があるのか?それは0歳の赤ちゃんでも自分の遊びを選ぶ権利があるからです。自分の遊びたい時に、遊びたい玩具の所まで行き、手に取って遊ぶ。遊び終わったら、保育者と一緒に元の場所へ戻す。とても大切な事です。経験を毎日繰り返す中で、主体的・自己選択の基本が身につけていきます。子どもの目線で玩具を選択しやすいよう、組み合わせやすいよう工夫して環境を整えています。



### 「自分の限界をわかって遊びを選択できる力」

新しいパズルに挑戦した2歳児のR君。周りが波型になり少し高度なパズルですが、見守る隣でスムーズにはめていきます。しかし、写真の2ピースがどうしてもはまらないのです。5分以上苦戦した結果、もう一度やり直そうと考えたのか、せっかくなので他のピースまで壊し始めました。再度挑戦しますが、やはり同じ2ピースが残りました。R君は「もう、しない!」と終えて他の遊びへ行きました。かれこれ20分以上頑張ったR君はまだ自分には難しいと判断できたのです。大人が「あと2つで完成だよ。回したらはまるから頑張らんね～」と言えば簡単に完成しますが、残るのは大人の自己満足だけでしょう。私たちは育児行為もですが、遊びも待ちます。大人が手を貸す、ヒントを出すことは簡単ですが、子ども自身が考えたからこそ達成感や喜び、葛藤が生まれます。それが自己肯定感につながっていくのです。乳幼児期にこのような経験を沢山してほしいと思っています。時間はかかります。ですが、今の保育は一人ひとりに向き合う関わりができるのです。諦めも時には必要です。R君は努力し、今日は終わりと自分で判断しました。「やって～」と大人の手を借りる事もしませんでした。いつかまた、R君がこのパズルに挑戦し、完成させる瞬間が楽しみですね。

